



皆さんこんにちは！

地域おこし協力隊の星野です。

今月の集落支援だよりでは、大学生や西会津高校の集落との交流の様子をお届けします。



地域おこし協力隊 集落支援担当

ほしの 星野 壮祐 隊員

芸大生の活動報告

2月11日、『学生と集落の協働による地域活性化事業活動報告会』が福島市で行われました。大学生の受け入れを行っている福島県内の市町村と、そこで活動する大学生が登壇し、年間の活動内容を発表しました。

受け入れ側として参加したのは、二本松市や郡山市、南会津町などにあるとりわけ高齢化率の高い23の集落。対して大学生は福島大学をはじめ、獨協大学や芝浦工業大学、東海大学など全国から集まった23の団体が参加しました。本事業では、県のマッチングによって集落と大学のペアが決められるという形式で、大学ごとに、本事業を活用して1年目の団体や数年にわたって継続した活動をしている団体まで、その活動内容はさまざまでした。

西会津町では、東京藝術大学の学生有志団体である「やどりぎ案内」の皆さんが、年に数回来町し行った活動を



活動報告会の様子

発表しました。やどりぎ案内では、地域とアーティストのつながりが希薄であることを課題としており、その解決策の1つとして中町集落で創作活動を行いました。報告会では、中町集落にある「権現堂」と呼ばれる東屋を使いアート活動を行ったことを発表し、ほかの参加者にも大変評判な様子でした。

町とやどりぎ案内の皆さんは、令和5年度も交流を続けていく予定であり、引き続きアートによる地域活性化に努めていくことを期待しています。

西高生の雪かき体験

西会津高校の生徒の皆さんが2月20日に奥川地区出戸集落を訪れ、集落の雪かきの作業体験を行いました。

この日は、1、2年生と引率の先生の計29人が参加し、7つのグループに分かれて雪の積もった空き家を中心に雪かき体験をしました。西会津高校には野沢地区や町外から通っている生徒が多く、児童のほとんどが雪の多さに驚いている様子でした。

生徒の皆さんは、角スコップやスノーダンプなどの道具を駆使して、慣れない手つきながらも雪かきを楽しんでいました。一方で、先生たちは「久しぶりのいい運動です！」と張り切っている様子も見られました。

出戸集落の皆さんも少しずつ顔を出してくださり、集落と地元の高校生との直接的な交流が生まれたことで素敵な地域体験ができたのではないかと思います。雪かきをして体が温まった



西高生による雪かき

生徒の皆さんは、集落支援員の岩橋義平さんや西会津高校の長谷川孝先生などに雪国での遊び方を習い、肥し袋やスコップを用いたそり滑りや、雪山にダイブするなど思い思いに雪を楽しんでいました。これからも集落と地元の高校生との交流が継続できるように、学校などとの連携に努めていきたいです。

余談ですが、西会津町に来て初めての冬を迎えた私は、自宅の屋根の雪切りがなかなか上達せず、毎回雪崩に巻き込まれていました。これから暖かい季節を迎えますので、落雪には十分注意ください。